

「歴史から未来へ導く」

「錦江町と桜島」

今年に入ってからすでに桜島爆発回数445回。噴煙を上げ観光客にはオススメのスポットとなっているが…

桜島が大爆発（大正噴火）

して今年で99年目。来年の1月で100年を迎えようとしている。錦江町にも避難移住者が多く、錦江町も桜島と密接な関係にあるようだ。どのような思いで、移住し過ごしてきたのか。噴火から100年を迎える前に錦江町と桜島について歩いてみようと思う。

1914年（大正3年）1月12日、大地を揺るがしほぼしる溶岩を噴き上げ、桜島が噴火した。1ヶ月前から井戸水の水位が低下、海水温度の上昇が原因と思われる生け簀の魚やエビの大量死や冬眠中のヘビやカエルなどの活動が目撃された。

桜島の誕生は、約2万9千年前に起きた超巨大噴火により形成された陥没地形「始良カルデラ」に海水が流れ込み、錦江湾の湾奥部がつくり出さ

れ約2万6千年前に海底火山として誕生したとされている。

桜島は誕生以来、現在まで17回に及ぶ大噴火を起こしており、桜島の地層に噴出する軽石の層が17層あることから明らかにしている。

なかでも最も大規模だったのが、約1万3千年前の大噴火。

この噴火により、鹿児島市内では1メートル以上、県内全域で10センチもの火山灰が積もったとあり、錦江町へも多くの火山灰が降ったのではないだろうか。

（大正噴火99年の歴史を振り返る①）
 今月は、「桜島爆発の日」「大根占町誌」「田代町誌」からの情報をもとに制作しました。

桜島に関する著書や歴史

などを読むと詳しく記述してある。世界でも山に関する歴史や人との関わりある記述が残っている山は中々ない。

人との関わりの深い桜島の噴火と言え、1914年の大正噴火。錦江町でも大根占地区の桜原や田代地区の内ノ牧・中尾・久木野集落の方々は、大正噴火により桜島から避難してきた集落と町誌にある。

桜原は東桜島村の黒神集落から、久木野は脇部集落から、内ノ牧・中尾には西桜島村の赤水集落から避難してきたと

ある。

なぜ避難移住してきたか。大根占町誌を見てもその当時の噴火がすさまじかったことが推測できる。

一月十二日 月 晴

桜島爆発、二箇所硫煙が上がるの見える。時々鳴動の音を聞く。当地電信局へ有村集落は全滅、横山集落は大きな石が降り注ぎ悲惨な状況である。

午後三時前より連続して鳴動し、薄暗くなる頃には大きな地震が来た。家の外に逃げ出す物や津波を恐れる者があり道路に畳を敷いて一睡もせず夜を明かした者が多かった。

（大根占町誌より）

避難時の苦渋や生活の状況など町誌に詳しく記述されている。

来月からは、錦江町と桜島からの移住者について歩いてみたいと思います。



大正3年桜島大噴火 南日本新聞（平成8年1月12日掲載）

錦江町の歴史や言い伝え、昔の遊びや行事など、特集を組んで取り上げていきたいと思っています。町史や各資料より調べ掲載していきますが、掲載した内容と違う見解の資料などありましたら、錦江町役場企画課広報へご連絡下さい。錦江町の歴史や文化をひも解き、観光や地域づくりに繋げていきたいと思っています。また、個人でお持ちの歴史的資料や写真、言い伝えなどありましたら、取材や調査にしていきたいと思っていますのでご連絡下さい。

【問い合わせ先】 錦江町役場 企画課 Tel 0994-22-3032